

腎臓病

最新治療リポート



5月～金掲載

人間は腎臓なしでは生きていけない。腎臓の機能が低下したら、何らかの形でその機能を代替する必要がある。治療法はいくつかあるのに、できないのだろうか。

「今から30年前の腹膜透析は、酸性の透析液を使っていたので、腸の癒着などの合併症のリスクが高かった。しかし近年は中性の透析液が使われるようになり、安全性は格段に高まった。また、昔のイメージで腹膜透析を見ている医師は少なく

ない」
ちなみに古賀医師は、この10年間で300人以上の患者に腹膜透析を導入してきたが、硬化性腹膜炎を起こしたケースは1例もないという。

「透析治療が必要と判断されたときに、いくつかの治療法があることを提示しない医師もいる。選択肢を示すには、それぞれの治療法に精通している必要がある。透析は、酸性の透析液を使っていたので、腸の癒着などの合併症のリスクが高かった。しかし近年は中性の透析液が使われるようになり、安全性は格段に高まった。また、昔のイメージで腹膜透析を見ている医師は少なく

ない」
ちなみに古賀医師は、この10年間で300人以上の患者に腹膜透析を導入してきたが、硬化性腹膜炎を起こしたケースは1例もないという。

「SDM(共同意思決定)という考え方の導入が急がれています」と語るのは群馬大学大学院医学研究科教授の小松康宏医師。同下。詳しく解説してもらおう。

慢性腎不全の治療法として、腹膜越しにろ過をする。腎移植と人工透析の2種類があり、人工透析には機械を使って血液をろ過する「血液透析」と、患者の腹腔に透析液を入れ

「今から30年前の腹膜透析は、酸性の透析液を使っていたので、腸の癒着などの合併症のリスクが高かった。しかし近年は中性の透析液が使われるようになり、安全性は格段に高まった。また、昔のイメージで腹膜透析を見ている医師は少なく

ない」
ちなみに古賀医師は、この10年間で300人以上の患者に腹膜透析を導入してきたが、硬化性腹膜炎を起こしたケースは1例もないという。

「SDM(共同意思決定)という考え方の導入が急がれています」と語るのは群馬大学大学院医学研究科教授の小松康宏医師。同下。詳しく解説してもらおう。

「SDMは以前からがん治療や緩和医療などで使われてきた手法で、医療において患者の価値観、生活の質を重視するようになった20

「治療の選択肢が複数あって、どれを選ぶか迷

慢性腎不全の治療法として、腹膜越しにろ過をする。腎移植と人工透析の2種類があり、人工透析には機械を使って血液をろ過する「血液透析」と、患者の腹腔に透析液を入れ



「今から30年前の腹膜透析は、酸性の透析液を使っていたので、腸の癒着などの合併症のリスクが高かった。しかし近年は中性の透析液が使われるようになり、安全性は格段に高まった。また、昔のイメージで腹膜透析を見ている医師は少なく

「今から30年前の腹膜透析は、酸性の透析液を使っていたので、腸の癒着などの合併症のリスクが高かった。しかし近年は中性の透析液が使われるようになり、安全性は格段に高まった。また、昔のイメージで腹膜透析を見ている医師は少なく

「SDM(共同意思決定)という考え方の導入が急がれています」と語るのは群馬大学大学院医学研究科教授の小松康宏医師。同下。詳しく解説してもらおう。

「SDMは以前からがん治療や緩和医療などで使われてきた手法で、医療において患者の価値観、生活の質を重視するようになった20

「治療の選択肢が複数あって、どれを選ぶか迷

「治療の選択肢が複数あって、どれを選ぶか迷

「腹膜透析」など個別化医療の時代へ

その努力はむなしく、「鼻息荒いオヤジ」は嫌われる。40代、50代になってもモテているオヤジたちは余計なことほしくない。そんな「ディスタンス」のあるオヤジが断然モテるのだ。

「ATMオヤジになっていませんか？」

「女性を求めるのは持続可能な関係」

「寒い自慢話はタサイ」

「対に送らない」

「24日(火)から『食薬習慣』の連載が始まります」

おわり

「鼻息荒いオヤジ」は嫌われる。40代、50代になってもモテているオヤジたちは余計なことほしくない。そんな「ディスタンス」のあるオヤジが断然モテるのだ。

「ATMオヤジになっていませんか？」

「女性を求めるのは持続可能な関係」

「寒い自慢話はタサイ」

「対に送らない」

「24日(火)から『食薬習慣』の連載が始まります」

おわり



潮田洋介(しおなぎ・ようすけ) エッセイスト・作家。「男の色気づくり方」「もういい人になるのはやめなさい」など著書70冊(計168万部)。ライフワーククリエイト協会を設立し、「サードプレイス」で好きなライフワークをしよう」をテーマに講演。毎朝8時、「自分の壁の壊し方」無料LINE@配信中(@nwh053330)。

男性力をアップする

コミュニケーション術

モテオヤジになりたい

「鼻息荒いオヤジ」は嫌われる。40代、50代になってもモテているオヤジたちは余計なことほしくない。そんな「ディスタンス」のあるオヤジが断然モテるのだ。

「ATMオヤジになっていませんか？」

「女性を求めるのは持続可能な関係」

「寒い自慢話はタサイ」

「対に送らない」

「24日(火)から『食薬習慣』の連載が始まります」

おわり



合和の時代、美女からモテる40-50代の男性はまず、「金を渡さない」。